

ひきこもり等に関する調査結果

平成30年3月 柳川市保健福祉部福祉課

1. 調査の手法・目的

近年、ひきこもりなど、自立や社会生活を営む上で困難な課題が、若年者を中心に社会問題となっています。また一方で、中高年のひきこもりなど、その長期化や高齢化も問題となってきています。

市では、ひきこもり等の状態にあるご本人・ご家族が身近な地域で包括的な相談や必要な支援を受けられるよう、今後、体制の整備を進めていきます。

本調査は、市民生委員児童委員協議会、市内で活動されている民生委員児童委員の皆様のご協力を得て、担当されている地区において現在把握されている情報をアンケートに記載していただく方法で行いました（個別訪問や関係先等への照会を行わない）。

ひきこもり等の概数を把握し、これからの施策展開の基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査対象

この調査では、おおむね15歳以上で、社会的参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）ができない状態が6か月以上続いて次のいずれかに該当する方を「ひきこもり状態にある」としました。

- ①自宅にひきこもっている状態
- ②時々買い物などで外出することがある

※ただし、重度の障がい、疾病、高齢等で外出できない人を除く。

3. 調査基準

平成29年9月現在

4. 調査方法

市内の民生委員児童委員170人に対するアンケート調査

5. 回収結果（回収率）

144人（84.7%）

6. 調査項目

- (1) 該当者の人数
- (2) 該当者の性別
- (3) 該当者の年代

- (4) 家族構成
- (5) 該当者の状況
- (6) ひきこもり等の期間
- (7) ひきこもり等に至ったきっかけ
- (8) 該当者への支援の状況

7. 調査項目

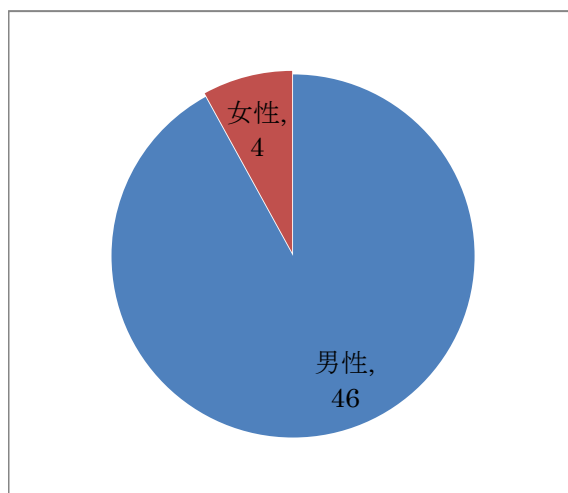
(1) 該当者の人数

- 本調査により把握できた該当者の総数は50人となっている。
- 人口当たりの該当者の割合は、0.08%となっている。(平成27年国勢調査における15歳以上人口59,357人に占める割合)
- アンケート全数の回答があったとして推計をすると(50÷84.7%)該当者は59人となる。

(2) 該当者の性別

- 該当者の性別は、男性が46人(92%)、女性が4人(8%)となっている。
- しかし、近年は女性のひきこもりが外からは見えにくく、見過ごされやすいという問題もあるので注意が必要。

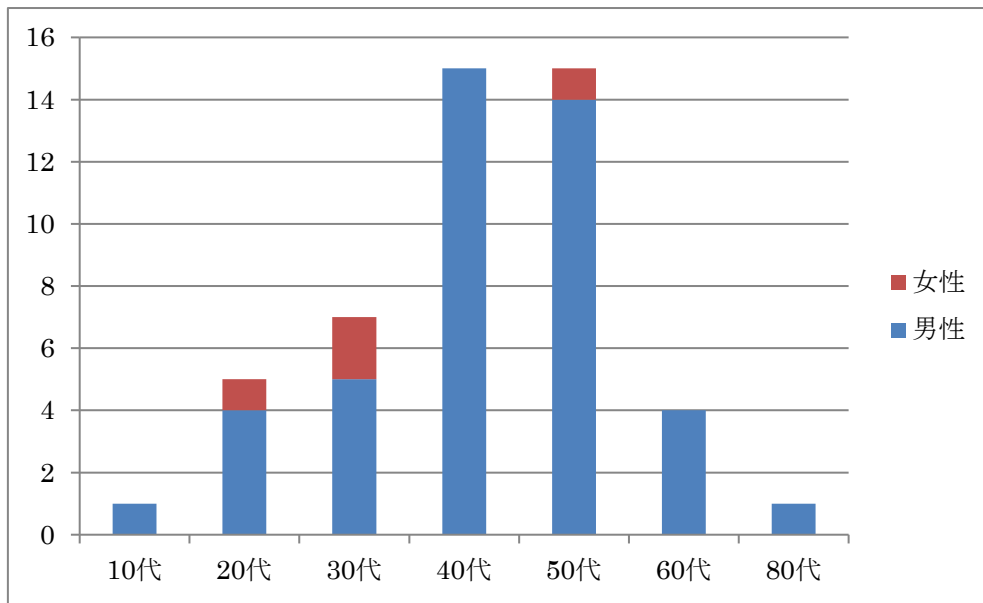
性別	該当者数	割合
男性	46人	92%
女性	4人	8%
合計	50人	100%



(3) 該当者の年代

- 年代別では40代と50代どちらも15人(30%)で最も多く、次いで30代、20代となっている。
- 10代から30代までの「若年層」が13人、26%に対し、40代以上の「中高年層」が35人、70%を占めている。
- 男女別では、(2)で述べたように女性のひきこもりがわかりにくい傾向にあるため、数字には表れていない可能性がある。

年代	男性 (人)	女性 (人)	合計 (人)	年代別割合 (不明除く)	「若年層」 「中高年層」 (不明除く): 人	「若年層」 「中高年層」 (不明除く)	年代別総人口に 占める割合
10代	1	0	1	2%	13	26%	0.03%
20代	4	1	5	10%			0.08%
30代	5	2	7	14%			0.10%
40代	15	0	15	30%	35	70%	0.18%
50代	14	1	15	30%			0.17%
60代	4	0	4	8%			0.04%
80代	1	0	1	2%			0.01%
小計	44	4	48				
不明	2	0	2	4%			
合計	46	4	50		48		

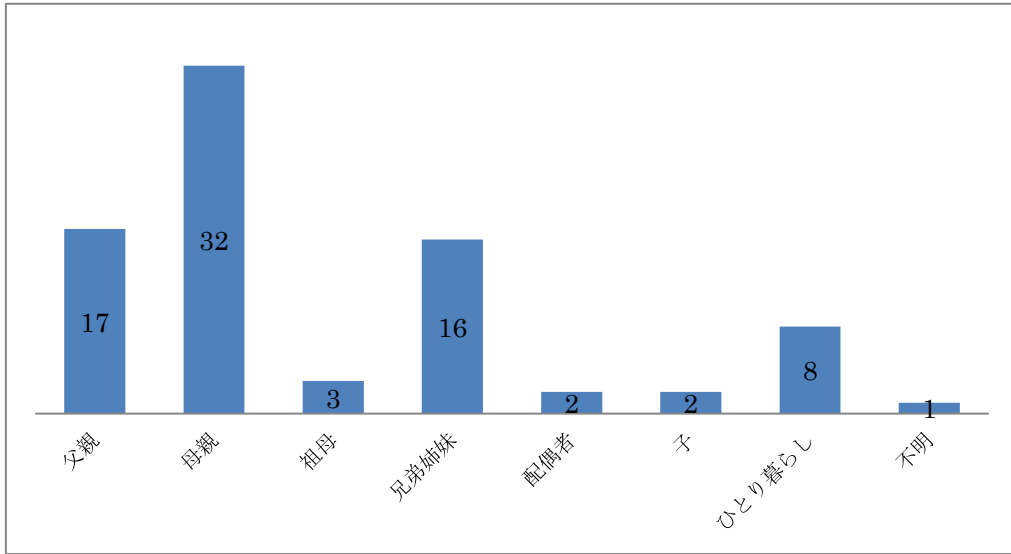


(4) 家族構成 (複数回答可)

①全体

○家族と同居している人がほとんどであり、同居者は「母親」「父親」が多く、41人(82%)が家族と暮らしている。

○ひとり暮らしは8人(16%)であった。



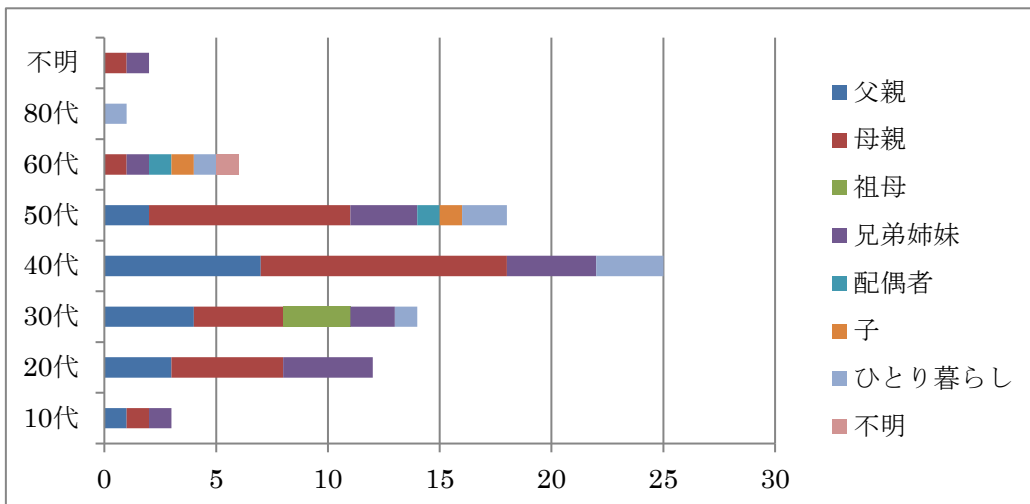
②年代別

○ 10代から40代は主に父、母と同居している数が多い。

○ 「ひとり暮らし」8人に占める年代は30代以上となっている。

年代	父親	母親	祖母	兄弟姉妹	配偶者	子	ひとり暮らし	不明	合計
10代	1	1		1					3
20代	3	5		4					12
30代	4	4	3	2			1		14
40代	7	11		4			3		25
50代	2	9		3	1	1	2		18
60代		1		1	1	1	1	1	6
80代							1		1
不明		1		1					2
合計	17	32	3	16	2	2	8	1	

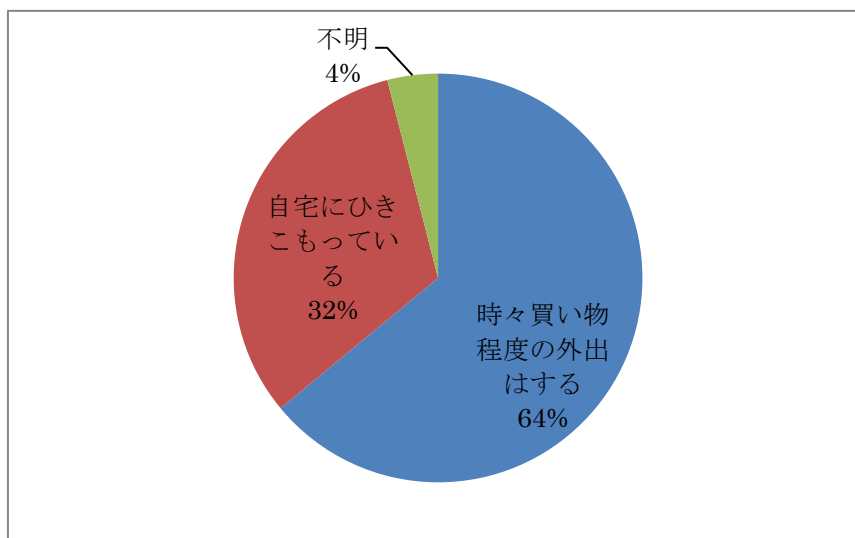
(単位：人)



(5) 該当者の状況

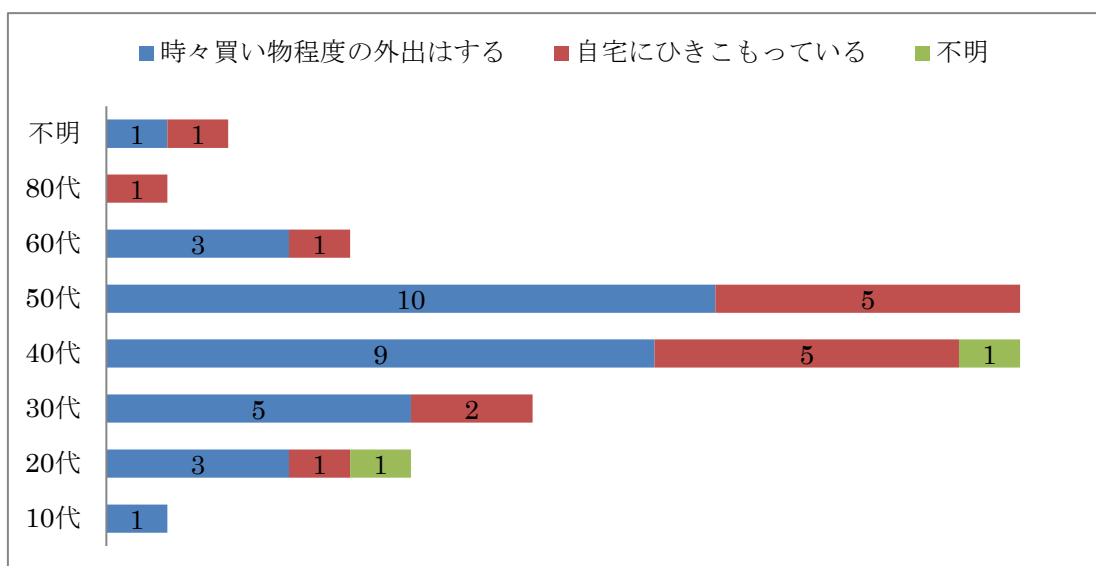
①全体

○「時々買い物など外出することもある」が32人(64%)、「自宅にひきこもっている状態」が16人(32%)であった。



②年代別

○どの年代においても、半数以上が「時々買い物程度の外出はする」となっている。

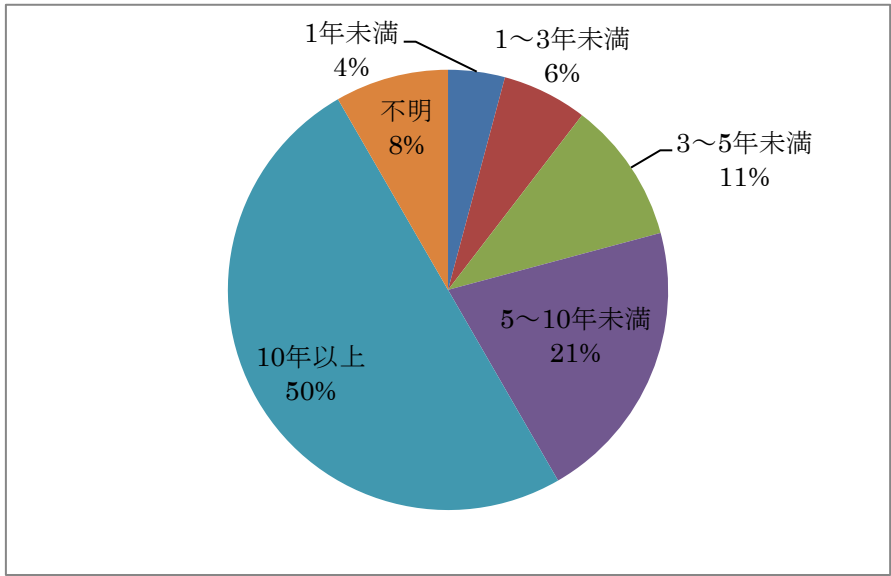


(6) ひきこもりの期間

①全体

○ひきこもっている期間が「3年以上」に及ぶ割合が82%、「5年以上」に及ぶ割合が71%を占める。

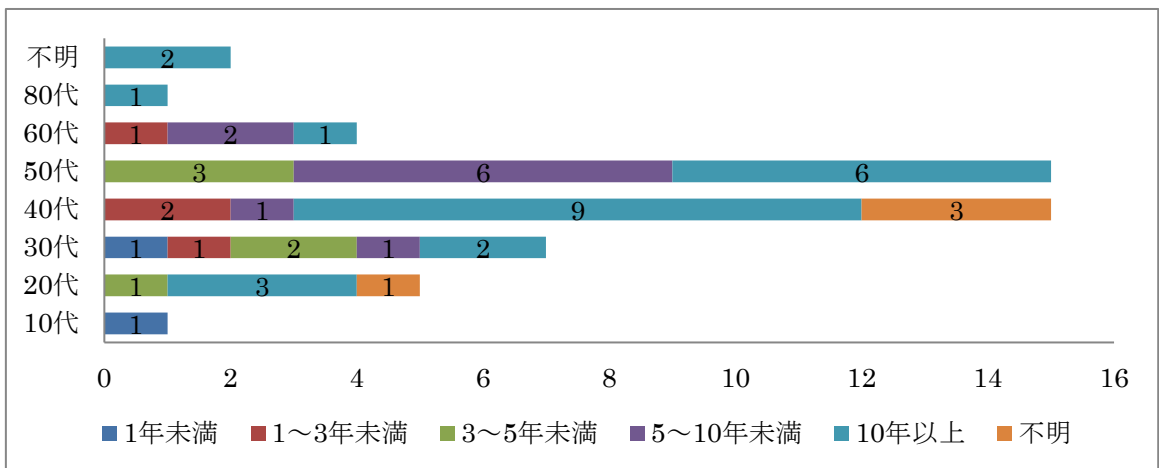
○「10年以上」が最も多く、50%を占める。



②年代別

○40代からは「10年以上」の数が多くなっており、高い年齢層で長期化が見られる。

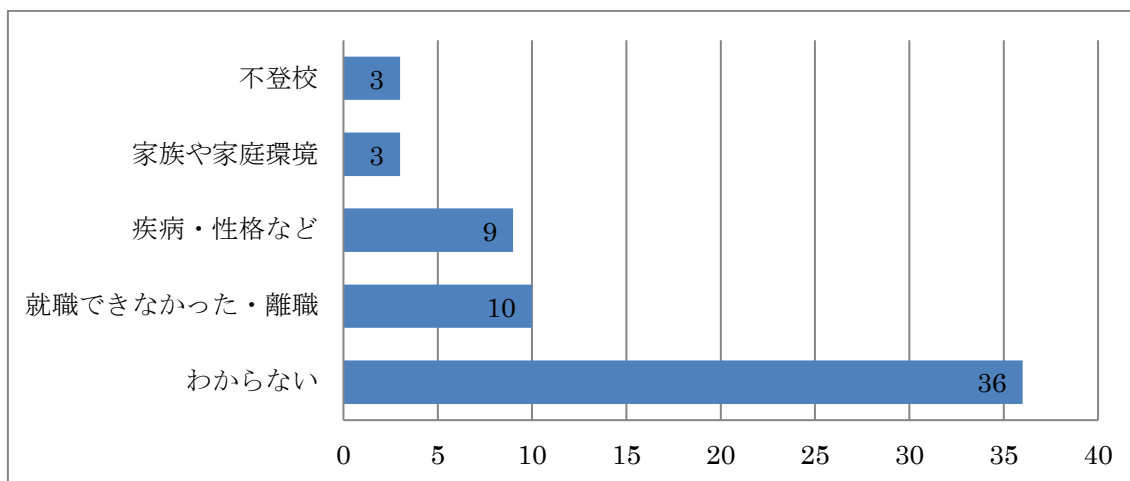
年代	1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~10年未満	10年以上	不明	合計
10代	1						1
20代			1		3	1	5
30代	1	1	2	1	2		7
40代		2		1	9	3	15
50代			3	6	6		15
60代		1		2	1		4
80代					1		1
不明					2		2
合計	2	4	6	10	24	4	50



(7) ひきこもり等に至ったきっかけ（複数回答）

①全体

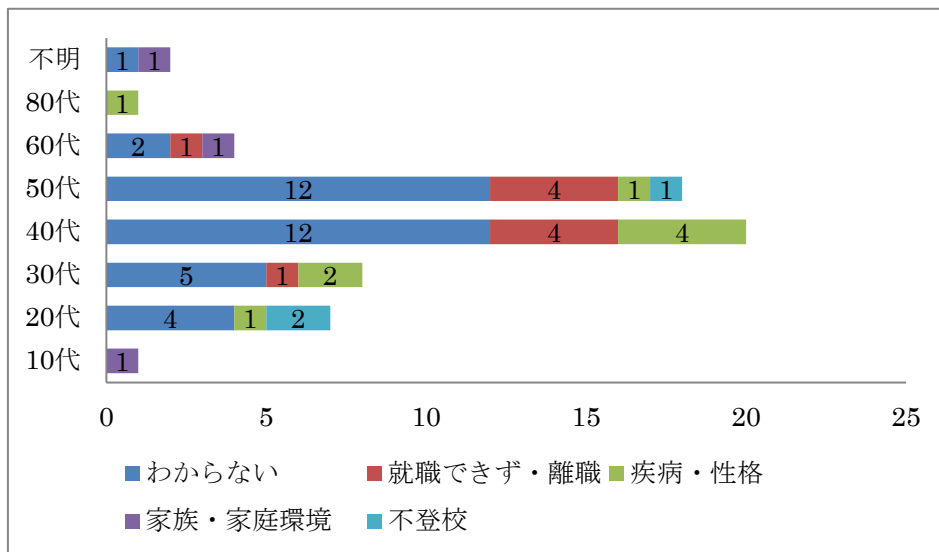
- 「わからない」が36人と最も多く、全体の72%を占めており、民生委員児童委員の「ひきこもり」把握の困難さを示していると考えられる。
- きっかけがわかるもののうちでは、「就職できなかった・離職した」「疾病・性格など」「家族や家庭環境の問題」の順に多い。
- 「不登校」がきっかけとなっているものも6%を占めている。



②年代別

- きっかけがわかるもののうち、40代・50代では「就職できなかった・離職」が多い。

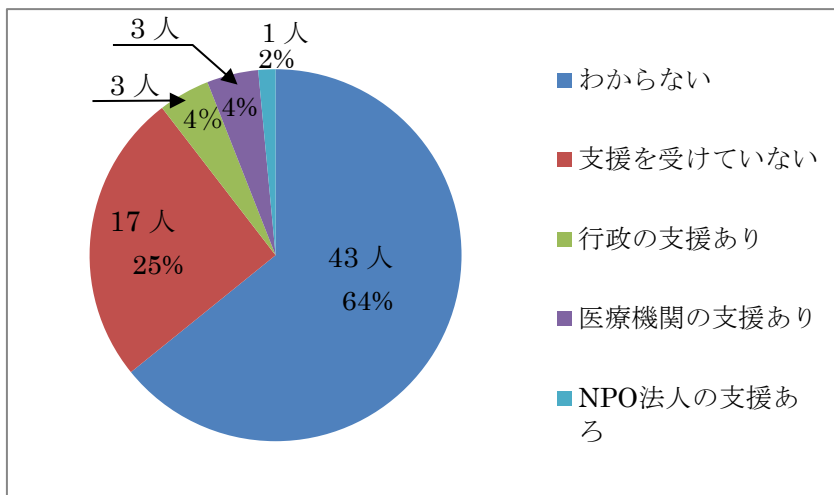
年代	わからない	就職できず・離職	疾病・性格	家族・家庭環境	不登校	合計
10代				1		1
20代	4		1		2	7
30代	5	1	2			8
40代	12	4	4			20
50代	12	4	1		1	18
60代	2	1		1		4
80代			1			1
不明	1			1		2
合計	36	10	9	3	3	61



(8) 該当者への支援の状況

①全体

- 「支援を受けていない・わからない」が60人と最も多く、89%を占めており、ひきこもりの人を擁する家庭が孤立傾向にあることがわかる。
- 「支援を受けている」が7人と低く、支援に結びつく難しさを示していると考えられる。



(9) 自由意見から

- 行政区長等との連携を図ることが必要。
- プライバシーの問題もあり、訪問は困難。
- 日頃の近所付き合いが大切。
- 本人が話そうとせず、家族もどうしてよいか分からない状態。
- 親が死亡したらどうするのか心配。
- 社会人の支援は学生に比べて難しい。
- 本人や家族が気軽に相談できるよう支援を工夫する。